玉翠会報
（第　27　号）
発行所　高松市番町二一一
高松高等学校内
香川県立高松高等学校玉翠会
発行責任者　大　西　大　介
印刷所　石　田　印　刷㈲

玉翠会新役員決まる

新会長　大西　大介氏
新副会長　加藤宏一郎氏
常谷　忠克氏
多田野　久氏は顧問に
＝18年度理事会・代議員会＝

平成十八年度玉翠会理事会は六月十日（土）午後一時より高松高校会議室にて、続いて代議員会は午後二時十分より五階玉翠会館ホールにて開かれた。

理事会に続いて開かれた代議員会においては、開会に先立ち、昨年度以降事務局にご逝去の連絡をいただいた、故真部隆子理事、水野秀夫元校長、大島久俊元校長他五十五名の方々のご冥福をお祈りし、全員で静かに黙祷を捧げた。

勝瑞教頭の司会により、まず多田野会長から「高松高校の南門に関西玉翠会のご寄付により、立派な校章が取り付けられた。東京玉翠会よりの毎年の寄付も図書の充実に充てさせていただいている。このように皆さんの物心両面からのご支援で後輩達の学習環境が整えられており、感謝したい。」と挨拶があった。

続いて溝渕校長より「先日の『読売ウィークリー』にて大学合格力公立高校全国六位、運動部文化部ともによい成果を残しており、文武両道もうまくいっている。伝統プラス新しい時代に挑戦する気概をもって邁進したい。ご理解ご支援をよろしくお願いしたい。」と挨拶が続いた。

議事は会則に従い多田野会長が議長を務め進められた。事務局より平成十七年度事業報告及び会計収支決算報告が行われ、監査報告の後、拍手で承認された。続いて平成十八年度事業計画案及び会計収支予算案の審議が行われ、原案どおり承認された。

役員改選については、事務局から、会長の多田野久氏、副会長の福家正氏、理事の高中四十八回日下千智氏、高高二十九年増井邦彦氏、四十四年松本敏裕氏から辞任の意向があり、新理事に高高二十九年藤本稔氏、四十四年三木美國氏、五十八年森下聖史氏、四十四年中村章夫氏が各学年から推薦されている旨報告があった。玉翠会会則第十一条には『会長及び副会長は理事の互選による』とあり、新理事の承認後、会を中断して会長と副会長を選出するための理事会を開き、その選考結果は高中部会の畠山武史理事より報告された。

新会長には高高三十五年大西大介副会長、新副会長には高高五十八年加藤宏一郎理事、三十八年常谷忠克理事が選ばれた。なお、高中部会の岩部隆氏、晩翠部会の脇和子氏、高高部会の槙田實氏は留任となった。また、多田野久前会長は顧問となった。新役員は別掲のとおりである。

この後、退任される多田野久会長、福家正副会長の玉翠会へのご功労に対して大きな拍手とともに新会長の大西大介氏らより花束が贈られ、両氏よりそれぞれ想いのこもったご挨拶をいただいた。その後、大西新会長、加藤、常谷両新副会長から元気溢れるご挨拶があった。

最後に岩部隆副会長のことばで平成十八年度玉翠会代議員会を終了した。

岩部副会長

大西会長

槙田副会長

脇副会長

常谷副会長

加藤副会長

ご　挨　拶

玉翠会会長
大西大介

夏の空が目にまぶしく感じられる季節となりました。

玉翠会会員の皆様には、ますますご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。

さて、去る六月十日の代議員会において、これまで玉翠会をまとめられ、会の発展に大きく貢献された多田野久会長が、後進に道を譲りたいとのお気持ちを表明され、ご退任されました。

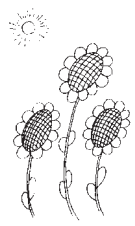
多田野前会長は、平成十年から、四期八年間にわたって、その慈愛溢れる中にも的確な判断力と実行力を以て、会員の皆様に親しまれ、まとまりのある和やかな玉翠会となるよう率先して会をリードされました。その間多くの事業をなされましたが、取り分け、創立百十周年の記念事業を立派に成し遂げられたことは鮮明に記憶に残っています。また、母校野球部の甲子園出場の際には、甲子園出場後援会会長として大局から細部まで心配りをされ、アルプススタンドを埋め尽くした高松高校大応援団が最優秀応援団賞を受賞できる環境をつくられました。その他、母校の教育環境の整備や教育活動の援助にも意を注がれ、後輩達が学業や部活動に専念できるよう側面から温かい支援をされました。こうした多田野前会長の細やかな気配りと精力的なご活躍は、会員の皆様におかれましてもご記憶に新しいことと存じます。

多田野前会長に対しましては、長い間のご苦労に感謝とご慰労を申し上げ、今後のますますのご活躍を会員の皆様と共にお祈り申し上げます。

私こと、後を引き継ぎ、玉翠会会長の重責を負うこととなったわけですが、これまで会のためにご尽力されました先輩役員の皆様をはじめ、全国の支部や会員の皆様からますますのご支援とご鞭撻をいただき、微力ではありますがお役にたてればと決意を新たにしております。

玉翠会の会則には、「会員相互の連絡と親睦を図り、母校の発展を期する目的とする」とあります。この会が母校（高松中学校・県立高等女学校・高松高校）で学んだ思い出深い仲間の集まりでありますように、また母校から時代を担う優秀な人材が将来にわたって多数育ちますように、新役員の皆様と力を合わせて円滑な運営に心がけてまいりたいと思っております。

会員の皆様の一層のご協力をお願い申し上げ、ご挨拶といたします。



濫觴、大河となる

高松高等学校長　溝渕利博

玉翠会の皆様には平素より母校の教育活動に対して深いご理解と多大なご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。特に昨春の野球部甲子園出場に際しては、数多くの皆様から温かいご支援をいただき深く感謝申し上げます。

さて、「濫觴（らんしょう）、大河となる」という言葉があります。「濫觴」とは『孔子家語』三恕篇及び『荀子』子道篇に見え、孔子が着飾った服装の子路に対して「揚子江のような大きな河も、その源は觴(さかずき)を濫(うか)べるほどの小さな流れだった。よく覚えておきなさい。言葉にはやる者は華美となり、行動にはやる者は驕慢となる。真に力のある者は、言行にいたずらな見栄を張ることがない」と戒めた言葉として出てきます。

高松高校の場合も、前身の香川県尋常中学校と香川県高等女学校の最初の卒業生は、それぞれ六、十一人というささやかな出発でした。今日、高松高校は全国に名門校としてその名を知られるようになり、卒業生の数も四万九千人を越え、我が国は勿論世界各地において目覚ましい活躍をされる大河となっています。しかし、この「濫觴」の教えのとおり、その湧々たる流れの源を辿れば、大きな夢を抱いて県内最初の中学校と高等女学校設立に尽力された方々や、溢れんばかりの情熱を生徒の教育に注がれた教職員の皆様、向上心に燃えた卒業生の皆様の真摯なご努力など、関係者の並々ならぬご苦労の数々があったことを忘れてはならないと思っております。これら先人達の熱い思いは、校訓や校歌などによって後輩達に伝えられています。高松中学校の「至誠一貫」と「勤しむ健児」、県立高松高等女学校の「雪持ち笹」と「清き心の乙女」、高松高校の「自治」と「希望わく若人」などは、時代を超えて変わらぬ高松高校の教育のバックボーンと目指す理想の若者像を指し示しています。また、修文練武両面に亘って全人的な成長を促す「文武両道」の指導方針や、幾多の先輩達によって受け継がれてきた「独立自主」の精神も良き校風として今も生き続けています。

創立百十四年目を迎えた高松高校は、全日制が各学年八クラスの九五七名、定時制が四三名、通信制が三三五名の合計一、三三五名の才気溢れる生徒達が、現在も進学や部活動で優れた実績を上げるなど活躍しています。今後とも教職員や生徒達と手を携えて、本校の素晴らしい歴史や伝統にさらに磨きをかけ「誇れる母校」となるよう努力していきたいと思っておりますので、玉翠会の皆様の尚一層のご協力とご支援をお願い申し上げますとともに、玉翠会の今後益々のご発展と会員の皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げ、ご挨拶といたします。

『ごあいさつ』

玉翠会前会長・顧問
多田野　久

青苗の田の美しい広がりに、この国に生まれた幸せを感じる季節となりました。

玉翠会会員の皆様には、ますますご壮健にてご活躍のこととお慶びを申し上げます。

香川県内で最も伝統ある同窓会組織玉翠会の会長として、四期八年、何とか無事に役目を果たすことができました。支えてくださった副会長、理事、代議員、各支部の役員及び会員の皆様、そして校長先生を始め高松高校の職員やPTAの皆様、感謝の気持ちで一杯でございます。本当にありがとうございました。

この間、思い起こしますと、心に残る行事や出来事がいくつもございました。創立百十周年記念行事におきましては、香川県営野球場で「香川の早慶戦」（高高VS高商）を行い、ホテルクレメント高松にて一、二〇〇名の会員が一同に会した大パーティを盛大に行うこともできました。また記念として、母校に「独立自主の鐘」（記念モニュメント）を寄贈しました。この鐘は、現在も、朝八時三十五分の始業時と、夕方十七時三十分の定時制の始業時に鳴り響き、後輩たちを励まし続けております。

また、昨年春には、母校野球部が選抜高校野球大会に七十二年ぶりの出場を果たし、全国から七、〇〇〇名の大応援団が集いました。圧巻はベートーベンの第九をみんなで合唱したことで、その統制のとれた応援ぶりが高く評価され、最優秀応援団賞を頂きました。

母校では、新しい取り組みとして玉翠グローバルアカデミー（GGA）が始まり、各界で活躍する卒業生の話を在校生に聴いてもらっており、生徒達に夢を持たせるためのイベントとして定着してきました。昨年度から、修学旅行の形態も大きく変わりました。従来型のただ楽しむだけの修学旅行ではもったいないということで、東京玉翠会の多大なるご支援を得て、生徒が先輩達の実際に働いている姿を見、話を聴くなどして、自分の人生の進むべき道の参考にする「研修旅行」形式を採っています。生徒自身の自主独立の精神を生かしつつ、先輩との交流も深められているなど、皆様方のお蔭で母校で学ぶ後輩達の教育環境も一層向上しております。

玉翠会は一世紀余にわたって先輩たちが残してこられたこれまでの輝かしい伝統を引き継ぐとともに、二十一世紀を担う新たな歩みが期待されております。このような節目の時期を迎えるにあたって、大西大介新会長という適任者を得たことはこの上ない喜びであります。大西新会長は、これまで創立百十周年記念事業実行委員会委員長並びに野球部甲子園出場後援会実行委員長として、リーダーシップを遺憾なく発揮して見事各事業を成功裏に導くなど、その卓越した指導力と行動力は既に実証済みであります。今後、清新な大西新会長のもとに玉翠会の更なる発展を心より願う次第であります。

最後になりましたが、長きにわたりご支援とご鞭撻を賜りました会員の皆様方に厚くお礼を申し上げますとともに、皆様方のご健勝と玉翠会のご発展を心より祈念して、退任のご挨拶とします。

玉翠会役員

本部

（会長）	大西大介	
（副会長）	岩部　隆	脇　和子
（副会長）	槙田　實	加藤宏一郎
（副会長）	常谷忠克	
（顧問）	岡野美代子	
（顧問）	多田野　久	

支部

（東京玉翠会会長）	渡辺　修	
（副会長）	永野精子	
（副会長）	高田トシ子	
（事務局）	岩崎昭宏	
（関西玉翠会会長）	藤井義弘	
（副会長）	島田清隆	
（副会長）	川西艶子	
（副会長）	亀井くみ子	
（副会長）	樋口順一	
（岡山玉翠会会長）	辻　孝夫	
（副会長）	太田武夫	
（副会長）	河野一郎	
（副会長）	清水育子	
（事務局）	多田譲治	
（徳島玉翠会会長）	太田房雄	
（副会長）	塩田　洋	
（副会長）	駒木典子	
（副会長）	入谷忠光	
（副会長）	南本睦代	
（事務局）	寺嶋吉保	

高中部会

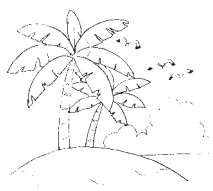
理事
植田　穣・丸山　修・加藤達雄・畠山武史・大竹哲也・三宅洋三・岡　観隆・九冨彰三・久米房之助

監事
菰渕　昭

晩翠部会

理事
伊藤卓子・高木敬子・尾形カズヱ・喜岡美知子・谷本文子・大久保和子

監事
安達惠美子



高高部会

理事
佐藤嘉子・太田英章・今澤暉子・大塚裕康・藤本　稔・古竹久雄・前谷亮三・白井　治・大林義和・谷森　勉・石原英輝・豊田章二・徳永孝明・小川和彦・森田紘一・吉岡哲朗・村井恵子・中山隆司・中村秀明・石橋真知子・中村谷年威・三木美國・中　博史・小島英夫・間島賢治・石田謙作・中村谷百則・灘波博司・中山千晶・亀井正好・小早川龍司・井本康裕・森下聖史・稲田耕一・森川輝男・野網省平・中村章夫・川東孝俊

監事
前田道正

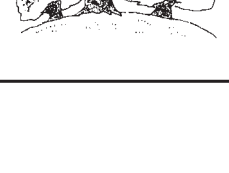
代議員名簿

高中部会
河西源吉・村尾穂積・森　慶太郎・國宗武男・竹内久士・小西行三・逸見正次郎・古川静夫・小河旭・上原明正・加島健・竹内正・松島良平・原内平・松野隆明・渡辺弘・泉川孝平・山田幹夫・木内正夫・渡邊典雄・塩田良弘・黒田昌男・荒木幹雄・清谷圭一・増田照夫・谷川一典・河野猛・水野直樹

晩翠部会
岸本哲代・久保田千代・明石よしえ・筒井かおる・綾田絹江・杉内武・中村政子・國宗博子・鈴木タツヱ・穴吹武子・杉山清子・渡辺綾子・鎌田静子・香月フミ・川西美代・丸尾喜美子・中村美恵子・久米八寿子・森永栄・井上敬子・平井貞子・伊藤喜美子・藤田幸子・笠井愛栄・小川幸子・遅澤シズ子・山田恵子・滝口清子・山形芙自・岩井美智子・川瀬信子・秋山多美子・荒木聡子・上原美智子・加藤鎮子・佐藤恭子・神谷順子・松田郁子・西尾信子・伊藤悦子・矢野坂愛子・岡部澄子・水野綾子・玉城玲子・石原卿子

高高部会
池田清・岡村幸雄・槙塚安得・岡修一・平井二郎・河西慈子・灘波文子・太田一彦・辻正司・作花節子・竹内昌子・関谷聡子・植田京子・山西守・森恵洪・熊善一郎・中村敬子・真鍋千賀子・吉田晃・塩田正章・松原剛・秋山夫佐子・中障子不二子・岡崎勝一・増田勝彦・星川美智子・溝川淳子・遠藤忠知・合田武・森田幸子・日野弓槻・岡崎進・上野文夫・八代紀子・横井侑子・塚本修・佐竹睦子・加藤祥子・木村大三郎・高濱孝・安藤晋一・笠井ミヤコ・谷本朋子・千切谷多一郎・鎌田基志・岡田佳代子・飛田久子・山内康生・三宅加代子・北岡保之・松尾久美子・植田重則・佐藤康弘・朝国太啓子・大和田昭邦・尾崎正澄・嶋由利子・濱本貴美子・角田朝則・真屋正明・中村茉莉子・古市恵子・高橋博之・香西幸夫・牟禮明・松山千恵子・平井大資・海部泰夫・十河嘉代・川西笑子・池田紀治・上野準一・堀家みどり・森佐知子・小河雄磨・井上哲・重松佐栄子・糸瀬敏恵・笹島幹豊・榊原賢治・穴吹恵美・神内幾代・鎌田順二郎・図子泰・飯間康代・長嶋佳子・嶋村昭・松山哲也・池田恵子・檀原万里子・岡永二・土居譲治・泉暁美・織田幹子・佐佰典久・福田安伸・久保睦子・久松吾都子・修理伸一・横山忠則・大西葉子・浜崎泰子・神内正信・和田知文・稲本賀世子・橋本映美・三島義之・新名孝司・北条ひとみ・大石伊都子・吉田守秀・岸田光哉・吉川正美・松下節子・松延健二・木下雅子・藤野勢津・斎藤雅春・江見壽建・松野千珠・松岡利佳・石濱英暢・高木美穂・出射恵美子・新谷昭雄・野口宏一・門脇禎人・川井幸・風呂貴子・宮脇森・坂本耕一・久米寿美子・高木美香・下地崇弘・大倉恵美・前田恵美子・北島桐子・前野勝彦・藤谷良太郎・小野山千津・桑島利江子・篠原隆司・大門由美子・池田康之・三好啓介・木下晶・三好享・千切谷耕一郎・三﨑恵奈・滝口英城・富岡貴美・井上菜々子・前谷季妙・世俵賢一・井上直人・西谷暁子・岡田いずみ・西口潤・神内克知・石原志保・井手下和洋・渡辺光明・西口園恵・川西章弘・山上佳樹・熊宏美・大野明美・大橋弘毅・山下徹・串田えみ・濱田洋子・阪本朋彦・香西晴之・西岡佐知子・朝倉理映・清水洋平・赤崎哲也・松本順子・大賀純子・松岡敬三・鎌田長明・川東昌子・十河真紀・長町篤・高橋優介・細川直子・西村明音・亀井寿宏・渡辺邦広・糸瀬ふみ・次田紗己・横山勇介・戸島陽平・石原ゆかり・淀谷光子・千葉一孝・佐藤傑・河本和美・南原加代子・森谷拓朗・渕田慎也・長井綾子・桑村英里・尾路紘一・橋倉今日子・永井幸子・柴田真幸・加藤集平・富家嘉顕・黒川あゆみ・鍋嶋明子・小林俊博・笹島正豊・富田唯・上春美奈

定通部会
松崎善忠・玉木勲・藤沢康良・横峰豊・河端豊・野中日勝・大麻悦治・中山敏勇・松本正義・頼富美偲子・佐々木允子・松本修・大見昌弘・苫澤昭一・田渕薫・川口光子・塩田政則・市原武・香西悦子・和木智香子・長尾美智子・沖田フサエ・武田芳美・上田昇・青木和也・奥中榮子



平成17年度　玉翠会会計収支決算書

〈収入の部〉

費　目	金　額
1 玉翠会入会金	1,052,600
2 玉翠会会費	8,332,000
3 広告料	250,000
4 雑収入	6,794
5 前年度繰越金	27,087,664
計	36,729,058

〈支出の部〉

費　目	金　額
1 本部運営費	5,090,784
(1)玉翠会運営費	750,093
(2)慶弔費	441,170
(3)玉翠会報発行費	2,299,521
(4)職員給与	1,600,000
2 支部運営費	1,133,220
(1)支部総会お祝	350,000
(2)支部総会旅費	783,220
3 卒業生記念品料	108,528
4 学校助成金	2,000,000
5 備品充実費	2,295,300
6 教育基金へ繰入	1,728,000
7 退職積立金	200,000
8 予備費	0
9 次年度繰越金	24,173,226
計	36,729,058

平成18年度　玉翠会会計収支予算書

〈収入の部〉

費　目	金　額
1 玉翠会入会金	1,037,200
2 玉翠会会費	8,000,000
3 広告料	250,000
4 雑収入	7,574
5 前年度繰越金	24,173,226
計	33,468,000

〈支出の部〉

費　目	金　額
1 本部運営費	5,450,000
(1)玉翠会運営費	950,000
(2)慶弔費	500,000
(3)玉翠会報発行費	2,400,000
(4)職員給与	1,600,000
2 支部運営費	1,300,000
(1)支部総会お祝	400,000
(2)支部総会旅費	900,000
3 卒業生記念品料	120,000
4 学校助成金	2,000,000
5 備品充実費	1,500,000
6 教育基金へ繰入	1,728,000
7 退職積立金	200,000
8 予備費	500,000
9 次年度繰越金	20,670,000
計	33,468,000

創立百周年記念玉翠会教育基金　平成17年度収支決算書

〈収入の部〉

費　目	金　額
1 玉翠会会計より繰入金	1,728,000
2 預金利息	3,452
3 雑収入	0
4 前年度繰越金	22,173,367
合　計	23,904,819

〈支出の部〉

費　目	金　額
1 奨学金	1,688,400
2 教育活動費	50,000
3 予備費	0
4 次年度繰越金	22,166,419
合　計	23,904,819

創立百周年記念玉翠会教育基金　平成18年度収支予算書

〈収入の部〉

費　目	金　額
1 玉翠会会計より繰入金	1,728,000
2 預金利息	3,581
3 雑収入	0
4 前年度繰越金	22,166,419
合　計	23,898,000

〈支出の部〉

費　目	金　額
1 奨学金	1,728,000
2 教育活動費	200,000
3 予備費	50,000
4 次年度繰越金	21,920,000
合　計	23,898,000

平成17年度　玉翠会事業報告

月	日	曜	事　業　名	会　場
5	23	月	玉翠会会長・副会長会	校長室
6	6	月	会計監査	5階会議室
6	11	土	玉翠会理事会	1階会議室
			玉翠会代議員会	玉翠ホール
			玉翠会教育基金運営委員会	玉翠会議室
6	29	水	玉翠会・ＰＴＡ合同歓送迎会	リーガホテルゼスト高松
7	5	火	玉翠会報第26号発行	
7	9	土	東京玉翠会総会	ホテルパシフィック東京
9	10・11	土・日	第55回文化祭	高松高校
10	16	日	岡山玉翠会総会	アークホテル岡山
10	22	土	関西玉翠会総会	ホテル日航大阪
11	18	金	先輩講演会（高高34年卒　斎藤善浩氏　ワシントンD.C.在住　弁護士）	体育館
1	7	土	徳島玉翠会総会	ホテルグランドパレス徳島
2	6	月	玉翠会会長・副会長会	校長室
3	3	金	卒業式	体育館

平成18年度　玉翠会事業計画

月	日	曜	事　業　名	会　場
5	16	火	玉翠会会長・副会長会	校長室
6	1	木	会計監査	5階会議室
6	10	土	玉翠会理事会	1階会議室
			玉翠会代議員会	玉翠ホール
			玉翠会教育基金運営委員会	校長室
7	5	水	玉翠会・ＰＴＡ合同歓送迎会	リーガホテルゼスト高松
7	5	水	玉翠会報第27号発行	
7	8	土	東京玉翠会総会	ホテルパシフィック東京
9	9・11	土・日	第56回文化祭	高松高校
9	30	土	関西玉翠会総会	帝国ホテル大阪
10	22	日	岡山玉翠会総会	アークホテル岡山
11	8	水	先輩講演会（高高30年卒　三菱重工業会長　経団連副会長　西岡　喬氏）	体育館
1	6	土	徳島玉翠会総会	ホテルグランドパレス徳島
2			玉翠会会長・副会長会	校長室
3	6	火	卒業式	体育館

甲子園出場記念教育基金　平成17年度収支決算書

〈収入の部〉

費　目	金　額
1 野球部甲子園出場後援会より繰入	50,072,787
2 雑収入	5,200
合　計	50,077,987

〈支出の部〉

費　目	金　額
1 雑費	70
2 次年度繰越金	50,077,917
合　計	50,077,987

甲子園出場記念教育基金　平成18年度収支予算書

〈収入の部〉

費　目	金　額
1 雑収入	83
2 前年度繰越金	50,077,917
合　計	50,078,000

〈支出の部〉

費　目	金　額
1 教育活動援助費	27,000,000
2 雑費	1,000
3 次年度繰越金	23,077,000
合　計	50,078,000

昭和40年卒業生還暦記念文集「夢と志の行方」を発刊して

数え歳六十一歳、あっという間でした。二〇〇七年問題といわれる団塊の世代の大量退職がいよいよ始まろうとしている。評論家達が団塊の世代のことをかまびすしく書きたてて賑やかだ。私達には私達なりの還暦の祝いがあるのではないか。私達の人生の足跡を、「夢と志の行方」を追ってみよう。私達の本当の姿を自ら語ろう。それを纏めればそれが団塊の世代の一つである高松高校四十年卒の在り様なのだ。そんなことから私達の還暦記念文集を作ることになった。

六百八十七人の卒業生で残念ながら亡くなった同窓生は二十数名。住所の分かる六百に近い同窓生に案内を送り、原稿のお願いをして漸く八十数通の原稿をいただいた。恩師の先生からも十通の原稿をいただきました。卒業してからの四十数年のそれぞれの人生が語られた記念文集はずっしりと重く不思議な響きをいつまでも私達の心に響かせ続けている。組織の中で重責を担う多くの同窓生がいる。日本の技術力や世界貢献に思いを馳せる友もいる。世界一を夢見る友もいる。地味な仕事に幸せを見出す友もいる。病の不安と戦う友もいる。男女の深い溝を垣間見る投稿もあった。座談会では社会貢献や文明論に花が咲き、終の別れにまで話は及んだ。五人に一人は原稿をお願いできるかなと考えていたがそれには届かなかった。しかし、内容は熱く濃い。恥ずかしくない同窓生達の人生だ。むしろ誇らしい。

そんな文集をこの五月に何とか発行することができました。単なる記念誌を超えた私達の還暦の記念碑とでも言っていいのではと思っております。同窓生に限りの配布としておりますが、まだ記念誌に余裕がありますので、ご興味がおありになる玉翠会の皆様には、ご連絡いただければご進呈したいと思っております。

（編集委員　真野正明）

先輩講演会

生徒の質問に答える斎藤善浩氏

平成十七年度先輩講演会が、ワシントン在住、パーキンス・クイ法律事務所パートナーの斎藤善浩氏をお招きして、十一月十八日（金）高松高校体育館で行われた。

斎藤氏は、国際基督教大学卒業後、米国国務省言語課職員として米国に渡り、その後アメリカン大学にて、日本人として始めて三年課程のロースクールで学ばれ、法学博士号を取得された。現在は、国際貿易法、不当競争防止法専門の弁護士として米国で活躍されている。「ワシントン生活四十年 “The Forty Years in Washington”」と題された本講演は、長期にわたる米国滞在経験から、斎藤氏が考える日米関係の在り方、また、日米の価値観等に触れながら、今後国際的に活躍するであろう高校生に対して示唆に富む講演をしてくださった。―なぜ日米関係が大切であるのか、それは、まず第一に平和維持のため、第二に世界有数の資源浪費国として、天然資源を能率的に活用し、各国に平等に分配するためである。また、経済、医学、文化等の面でも日米関係は非常に緊密になっている。今後の日米関係を発展させるためには、若者が米国を今まで以上に理解することが必要である。そのためには、アメリカ民主主義の根底にある最も重要な概念、チェックアンドバランスを知ることが大切である。絶対的な権力をもっている一人が全てを決定するのではなく、第三者がそれをチェックするという考えである。―等々、話題は多岐にわたり、広い視野を持つことの重要性を感じさせる熱のこもった講演であった。さらに、これから国際社会に出て行く高校生に向けて、「狭き門より入れ（マタイ七・一三）」の言葉を引用され、各人の特性をうまく使える場所、隙間（niche）を見つけること、つまり、他の人が見つけていないような隙間を見つけて、そこに自分をはめていき、自分の才能を発揮していくことが大事であると強調された。講演終了後も、生徒からの質問が相次ぎ活況を呈した。

日米間をまたに掛け、国際的にトップランナーとして活躍されている先輩の話に、後輩たちは多大な啓発を受けた。

支部会だより

東京玉翠会

本格的な夏の訪れを迎えておりますが、玉翠会の皆様方におかれましてはご健勝のこととお慶び申し上げます。

東京玉翠会では、毎年七月の第二土曜日を総会の日としており、昨年七月九日には、約一、一〇〇名の卒業生が品川に集い、初夏のひと時、母校・故郷への思いを存分に語り合いました。それから早くも一年が経とうとしておりますが、私自身にとって忘れられない年になろうとしています。それは、私ども五十七年卒業生が、卒業二十五年目の学年として、総会の準備を執り行う担当学年であるからです。この一年間を簡単に振り返り、東京玉翠会の近況報告とさせていただきたいと思います。

昨年十月八日、常任幹事会の当日、前年担当学年である五十六年卒の方々をはじめ事務局総務パートの方々から、総会開催事務に関する引継ぎ会が行われました。いよいよ自分達の順番が回ってきたという決意を昨日のように思い出します。

同日夕方から、大西前事務局長の慰労会が行われました。東京高高会設立準備以来三十有余年の長きにわたり初代事務局長を務められてこられた大西先輩のご功労に、参加された誰もが心より感謝の意を表され、大西先輩の気さくなお人柄や、多田野玉翠会会長（当時）をはじめとする諸先輩の皆様の思いやりに溢れたご挨拶もあって、本当に心温まる会となりました。

十一月十九日には、新幹事団紹介と前年幹事団の慰労会が行われました。先輩の方々から励ましのお言葉を頂きました。五十七年卒幹事団は約三十名からなりますが、役割分担を決め、定期的に打ち合わせを行い、テーマを「つながり〜最近なんしょんな?」と決め、テーマ「つながり」に沿った当日の演出やプログラム企画を検討して参りました。その内容は、三月二十五日、四月二十二日、六月十日と三回にわたる学年幹事会において、審議・確認を頂きながら、ようやく固まってきました。総会までいよいよあと数週間を残すところとなり、最後の追い込みにいそしむ毎日を過ごしています。

この一年の活動として、高松高校研修旅行生の受入れについても触れたいと思います。昨年六月二十三日、東京玉翠会として初めての試みとして、約二〇〇名の高高二年生を、渡辺会長が理事長をされているＪＥＴＲＯをはじめとして二十三ヶ所で受け入れました。私の勤める会社でも、半日掛けて、十数名の生徒さんに、ショールーム見学、会社説明、質疑応答を行い、受け入れる自分自身にとっても有意義な時間を過ごさせて頂きました。

その後、七月二十三日には、職場訪問受入れに関する反省会を行い、初の試みであるがゆえの改善点や反省点は種々あるものの、全体としては高高生、東京玉翠会の双方にとって有意義なものであったとの総括を行いました。それを受け、八月十二日、事務局として高高を訪問し、校長、教頭先生等と認識交換を実施し、次年度以降も継続していくことを確認しました。今年も六月二十二日に、高松から後輩達がやってきます。自分もまた十名の生徒さんとお会いすることになっており、今から楽しみにしています。

簡単ではございますが、以上をもちまして、東京玉翠会の近況報告とさせて頂きたく存じます。玉翠会のますますの発展に、微力ながらも貢献して参る所存ですので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

（六月中旬記）

（五十七年卒　辻　篤）

関西玉翠会

第12回関西玉翠会総会
（ホテル日航大阪鶴の間に於いて）

関西玉翠会は毎年秋に総会を開催しており、例年、三百名余のご参加を頂いております。玉翠会京阪神支部から関西玉翠会と名称を改め今年で十三回目、今年は九月三十日（土）に帝国ホテル大阪に於いて開催を予定しております。

先日、総会のご案内に高松高校を訪問させて頂きました。実は母校訪問は、卒業以来初めてのことで、三十年振りに訪れた高松高校の変化には非常に驚かされました。でも人の記憶は心の中にいつまでも色あせることなくあるもので、温かく迎えて下さった先生方、生徒たちとふれ合ううちに高校時代の心象風景やあの頃肌に感じていた空気が私の中に鮮やかに甦ってくるのが判りました。ああ、大切なことは何も変わっていないんだと気づかされ、それをとても嬉しく感じております。

今年の関西玉翠会の総会のテーマは〈高松へ帰ろう〜高松、今と昔〉としております。このテーマを通じて、私と同じようになかなか母校高松高校訪問ができていない関西の皆さんに、私が母校高松高校で感じたこの感覚を可能な限り伝えられらいいなと考えております。

関西玉翠会では卒業後三十二年次となる学年（当年五十歳となる学年）が主幹事を行うのが習わしとなっており、昨年より卒業後三十一年次となる学年がサポートする体制をとることになりました。つまり昨年から二学年が互いに協力して事務局を運営するのです。高校時代であれば畏れも多い先輩後輩なのですが、今は同窓の仲間として仲良く事務局業務に努めております。特に昨年は母校高松高校の甲子園出場など、事務局主幹事としては非常にたいへんな一年だったことと思います。でもそのおかげで私たち五十年会は、昨年の主幹事であった四十九年の諸先輩のご活動をサポートさせて頂きながら、事務局のご苦労や心構えなど、いつもの年度より多くのことを学ぶことができたのではないでしょうか。

甲子園では同窓の諸先輩、後輩の皆さまの母校に対する熱い思いを改めて肌で感じることができましたし、この年齢になって初めてでしょうか自分の心のルーツを考える機会にもなったように思います。

また、今年から関西玉翠会においても東京玉翠会の同好会活動に準じた活動として「軽文学サークル」が活動を始めました。学生時代のクラブ活動とでもいえばよいのでしょうか。総会以外にも世代を超えて会員交流ができる場を提供していこうというものです。「軽文学サークル」では広く関西玉翠会の会員の皆さんから、新情報やエッセイなど自由にご寄稿を頂き、それを編集し、配信していこうとしています。会員間の横のつながりが、さらに縦のつながりに拡がっていくことを目指して、事務局としてはこのような活動は積極的に応援していこうと考えております。

関西玉翠会藤井会長が常々仰っておられる「再会、そして再開」という関西玉翠会の理念は、このような同窓会活動の醍醐味を端的に表現した言葉であると最近になって改めて気づかされるばかりです。事務局主幹事は一生に一度の大役ではありますが、諸先輩から代々受け継いできた『駅伝のたすき』をきちんとリレーしていきたいと存じております。あわせて他地区の各玉翠会支部の皆さまとともに玉翠会の益々の発展に微力でも貢献できればと存じております。

（五十年卒　松下泰衛）

関西玉翠会幹事団（関西 50 年会）

藤井会長

岡山玉翠会

（写真１）
前列左から門脇先生、植松先生、太田徳島玉翠会長、山下岡山香川県人会長、塚本香川県議会議長、溝渕校長、辻会長、真鍋香川県知事、大西玉翠会本部副会長、太田副会長、河野副会長、多田事務局長、２列目からは会員。

日本各地での水害・地震・強い黄砂など、地球の温暖化現象が、私達日常生活でも感じられますが、玉翠会のみなさまお変わりなくご活躍のことと思います。

母校の玉翠会本部では、役員、会長さまの若返りがあったようですが、私達の岡山では、昨年と同じメンバーの副会長太田武夫氏（昭和三十二年卒）、清水育子氏（昭和三十二年卒）、河野一郎氏（昭和三十四年卒）の三名に多田譲治事務局長（昭和四十四年卒）、会計理事担当に片山美穂氏（昭和四十四年卒）でがんばっています。第二十七回岡山玉翠会総会は、平成十七年十月十六日（日）、午後三時三十分からアークホテル岡山で開催されました。来賓として真鍋武紀香川県知事、塚本修県議会議長、太田房雄徳島玉翠会会長、恩師の溝渕利博校長先生、植松紀子先生、門脇禎人先生、本部の多田野久会長、大西大介副会長にご出席をいただきました（写真1）。

お正月に行う定例の役員会も、一月二十一日にアークホテル岡山・和食あくらで行い、東京玉翠会から来られた岡山市助役の井口義也氏（昭和四十七年卒）に加え、昨年からの仁木壮氏（昭和四十六年卒）、久しぶりに帰岡の植村登氏（昭和三十三年卒）の出席を得て開催しました。

定期出版物としては、「岡山玉翠会だより第四十九号」を平成十八年三月一日に発行し、今回は、会長辻の「岡山玉翠会二十七周年への想い」と植村登氏（昭和三十三年卒）幹事の「出戻り幹事の甲子園」、さらに厚生労働省から社会福祉法人旭川荘へ来られた仁木壮氏（昭和四十六年卒）の「伝統の底力」と題する近況報告を掲載しました（写真２）。

（第49号）　岡山ぎょくすい会だより　平成18年3月1日発行(1)
岡山玉翠会だより
発行責任者：辻　孝夫　編集責任者：多田譲治　題字：植田玉神

（写真２）

また、夏休みには母校の生徒さん達に、将来医学関係に進まれるとどのような夢があるかと言うことについて、見学、実習など持つことを校長先生とご相談しています。岡山大学病院での先端医療手術などの現場見学、医療スタッフとの談話会や将来への希望などの情報提供をしようと、現役の二宮善文氏（昭和四十九年卒）岡山大学大学院分子医化学教授と母校からの学生さん達も一緒に楽しみに計画しています。

高齢化社会を迎えている我国で、母校の生徒さん達の夢の一つに今こそ医療関係のすばらしさも役立つことを願っています。

（会長　辻　孝夫）

今後の挑戦
徳島玉翠会

徳島玉翠会においては昨年ほぼ全役員が交替になり、新役員のもと本年一月七日（土）に第十二回総会を開催しました。この開催に当たり新役員が奮闘して準備会を毎月のように開催しました。母校高松高等学校からは、大西玉翠会副会長、大野教頭、植松総務部長、渡辺進路指導副主事がご出席のもと、野球部の甲子園出場のＤＶＤを上映、受賞した最優秀応援団賞の盾も披露されました。中でも新生徳島玉翠会を記念して会員が手作りで作成した会誌第一号（写真は表紙）を配布し、一部の参加者からまた開催してほしいという要望が寄せられています。

総会開催後、本会誌を、総会で撮影した集合記念写真とともに会員約四百名に後日郵送して、十八年度総会への出席を促すとともに会費の納入をお願いしました。さらに役員の協力で、今回初めて会誌に広告を掲載し、その費用で郵送代、会誌印刷代をまかなうことができました。一部の会員からは、郵便為替でお願いをしていた会費も送られ、何とか本システムが稼働するようになれば、徳島玉翠会の活動が会員の目に見える形となり、会員とのコミュニケーションが円滑になることが期待されます。前述の徳島玉翠会の新生は、会長初め役員が一致団結して努力した結果であり、中でも情報技術（ＩＴ）なくしては不可能であったように思います。来年一月六日の第十三回総会に向けて四月以降ほぼ毎月役員会を開催し、計画を練っているところです。

現在あらゆる国、組織、分野間の情報交換とコミュニケーションはこの近代のＩＣＴ（Information and Communication Technology）に依存しているように思えます。総務省の調査によれば、先進国のインターネット普及率は表1に示す通りです。現在ではもっと普及していることでしょう。インターネットを単なる情報の消費に利用する人は多くても、電子メールなどを駆使して、自ら情報の提供者となってこそ、自己実現及び社会への貢献が迅速に行えるのではと思われます。このＩＣＴをうまく使いこなして自己実現や社会貢献をするためには、組織内の全構成員がある一定のＩＣＴについての知識と技術力を持っていなければ、ＩＣＴが全く存在しないのと同じになります。また残念なことに、個人情報保護法及び情報技術の悪用等により、会員相互のコミュニケーションが益々困難になっている印象です。今後このＩＣＴ（前述提供者としての情報技術）を自由自在に操る会員を増やすこと、またその世代の参加を促すことが新生徳島玉翠会の今後の課題でもあり、挑戦でもあります。とりもなおさず、この挑戦は全玉翠会会員に課せられた課題と挑戦ではないでしょうか。

時代を先取りしてこそ、伝統ある高松高等学校の同窓会としての玉翠会であり、そのような会のもとに会員皆様の参加による玉翠会となり、さらなる発展を祈念して支部便りといたします。

（会長　太田房雄）

日本	54.5%
イギリス	57.2%
アメリカ	59.1%
アイスランド	69.8%
スエーデン	67.8%

【表１ インターネット普及率（平成15年総務省）】

高松中学校 第46回卒業者
東京地区在住者の会

去る五月二十六日、東京神田の学士会館にて、高中四十六回卒東京地区在住者の会が行われた。東京地区には現在二十二名がお住まいになっており、毎年一回このような集まりが催されている。

第四十六回卒業生は、大正十二年、関東大震災の年にお生まれになり、太平洋戦争開戦の年に高中を卒業になられたという、日本の近現代史とともに人生を歩まれた方々である。今年で八十三歳を迎えることとなるが今なお健やかであり、本会でも食事をともにしつつ、和やかに旧交を温められた。

県内初のキャリア研修旅行

全日制課程二年生が例年行ってきた修学旅行が、平成十七年度より研修旅行と名を改め、内容も東京方面での研修を中心とするものに刷新されて実施されることとなった。平成十七年は六月二十二日から二十五日まで三泊四日で行われた。一日目は軽井沢散策、二日目には東京圏での班別自主研修、三日目には班別の自由行動を行い、四日目には帰途に就く、という行程であった。

二日目の班別自主研修は、東京玉翠会の全面的なご協力の下で行われた。玉翠会の会員がお勤めになっている企業、官公庁、大学、研究所等を、班別に分かれて訪問し、外部の者では立ち入ることすらできないような部分にまで足を踏み入れさせていただき、「本物」を目にする機会を与えていただいた。お世話になった東京玉翠会の皆様には計り知れないご尽力をいただいたことであろう。

平成十七年度に研修を受け入れていただいた企業等は以下の通りである。（順不同）

岡崎・大橋・前田法律事務所
ひびき法律事務所
梶谷綜合法律事務所
阿部・井窪・片山法律事務所
大西昭一郎法律事務所
ソニー株式会社
ホテルグランパシフィックメリディアン
ＮＨＫ
日本テレビ放送網株式会社
ＪＥＴＲＯ（日本貿易振興機構）
東京大学医学部　肝胆膵外科
帝京大学医学部　救命救急センター
早稲田大学
㈱プランツアソシエイツ
東京都臨床医学総合研究所
警視庁
東京工業大学　原子炉工学研究所
株式会社電通
三井住友銀行・日本銀行
マイクロソフト
ベルギービール広報センター
朝日新聞社
内閣府
㈱ナイキジャパン

この研修を体験して、生徒は次のような感想を述べている。

「今回の旅行は、行き先などを自分で選択する形式となった。各自が興味関心のある分野をしぼり、研修先を確定し、社会の第一線の現場を見、そこで活躍している方々から直接話を伺うことができた。それは普段、学校と家との往復をしているだけの私たち高校生にとって、とても有意義だった。この経験は、進路決定のうえで大きな役割を果たすと思う。貴重な経験を今後に生かしていかなければならない。」（『高高新聞』第三〇九号より転載）

平成十八年度も六月二十日から二十三日の期間、同様の研修旅行が行われた。本年度の研修も高高生一人一人にとって、自分の将来の展望を見出すような大変素晴らしいものになった。

ＪＥＴＲＯ渡辺修理事長とともに

平成 18 年度　研修旅行日程

6 月 20 日（火）
学校➡岡山駅➡名古屋➡馬籠宿／松本城 ➡白樺湖(泊)
6 月 21 日（水）
ホテル➡河口湖・富士山周辺／鬼押し出し・軽井沢／大涌谷・箱根／国立天文台・清里など➡都内(泊)
6 月 22 日（木）
ホテル➡都内班別自主研修➡ホテル(泊)
6 月 23 日（金）
ホテル➡都内研修（上野・浅草・両国等）➡東京駅➡岡山駅➡学校

南門に校章プレート

今春より、高松高校南門に新しく校章をかたどったプレートが設置された。これは昨年度に関西玉翠会からいただいた寄付金によるもので、校門の整備の一環として取り付けられたものである。今回のプレート設置は、学校外の方には高松高校をより知っていただけるように、そして生徒にとっては、校門をくぐる際に襟を正して高高生としての更なる自覚を持ってもらいたい、という思いが込められたものである。

本校校舎にはこれまで、外から見える位置に校章が置かれていなかった。御来高の折には、ぜひ一度目を留めていただきたい。

玉翠会寄贈関係

寄贈図書

池田　守男氏（昭和30年卒）
「新渡戸稲造全集（全23巻別巻2）」
堀　　長文氏（昭和30年卒）
「アメリカで歯を治療するとき」　福永玲子氏（昭和27年卒）著
「アメリカに生きる日本女性たち」　福永玲子氏（昭和27年卒）著
「このミステリーがすごい」
村尾　清一氏（昭和15年高中卒）
「鉛筆の芯」「新手紙読本」「こころの1冊」「日本人の手紙」
重藤　芳雄氏（昭和20年高中卒）
向田邦子著作本
北村　易子氏（昭和16年高女卒）
「タイムスリップ」
黒川　知文氏（昭和48年卒）
「ロシア社会とユダヤ人」「ユダヤ人迫害史」
高橋佳緒里氏（平成元年卒）
「お母さんは音楽の先生」
吉川　悠子氏（昭和44年卒）
「風の瞳に」
武井　光雄氏（昭和18年高中卒）
油彩画「夕景屋島」ブライアン・ウィリアムズ画
「現代日本の美術」全18巻「東山魁夷全集」全10巻
「新潮日本古典集成」全83巻　他154冊
上原　繁美氏（旧職員）
「故宮歴代法書全集（全30巻）」「中国歴史博物館蔵法書大観（全15巻）」
「中国書蹟大観（全4巻）」
大島　俊作氏（昭和40年卒）
「漱石全集（全17巻　別巻1）」「名著復刻　漱石文学館」「本居宣長」
辻　　孝夫氏（昭和30年卒）
「同門會誌　第46号・第48号」「すこやか VOL.33」「私と内科学」
「わかば会だより　第14号」「随筆　古稀におもう」
「随筆　山岡憲二先生を偲んで」
「アンデスの彼方に」「老婆心録」「古典に学ぶ」

寄付金

平成17年度、東京玉翠会より寄付金十五万円があり、下記の図書を購入致しました。
『世界美術大全集　西洋編　第1巻～第4巻・総索引』
『世界美術大全集　東洋編　第1巻～第4巻』

平成18年度　大学合格者数

1．国・公・私立大別合格者数　（平成18年4月20日現在）

国立大学 学校名	人数	国立大学 学校名	人数	私立大学 学校名	人数
北大	1	大阪教育大	1	青山学院大	12
帯広畜産大	1	神戸大	23	学習院大	1
東北大	2	奈良教育大	1	慶応大	32
秋田大	1	和歌山大	1	国際基督大	3
茨城大	1	岡山大	19	上智大	11
筑波大	5	広島大	17	中央大	23
埼玉大	1	山口大	3	津田塾大	3
千葉大	1	徳島大	12	東京女大	3
東大	13	香川大	18	東京薬大	2
東京医科歯科大	2	愛媛大	1	東京理大	21
東京外大	2	九州大	8	日本大	5
東京学芸大	2	熊本大	1	日本女大	2
東京農工大	1	琉球大	1	法政大	10
東京芸術大	1	合計	216	明治大	16
東京工大	5	公立大学		立教大	8
お茶の水大	2	国際教養大	1	早稲田大	62
電通大	1	高崎経済大	1	京都外大	1
一橋大	7	首都大東京	5	京女大	9
横国大	5	横浜市立	3	同志社大	91
信州大	1	都留文大	1	立命館大	119
名大	2	名古屋市大	3	関西大	34
愛知教育大	1	京都府大	1	関西外大	1
三重大	1	京都府立医大	1	関西学院大	50
京大	24	大阪市大	6	神戸薬大	6
京都工繊大	1	大阪府大	9	徳島文理大	14
阪大	24	兵庫県立大	5	合計（その他とも）	677
大阪外大	2	北九州市立大	1		
		合計	37		

2．国・公・私立大学学部別進学率（%）

学部	文外語社会	法政治	経済商	理	工	農林水産	医歯	薬	生活科学	体育	芸術	教育	その他	合計
	16	13	14	5	19	2	9	4	1	0	3	9	5	100

大学入試は入学志願者数よりも入学定員が多い「全入時代」を迎えようとしています。しかし難関大学では逆に志願者数を増やしているところもあり、依然として厳しい入試が続いています。

本校でも難関大学や医学部を志望する生徒が増えています。合格者数は別表の通りです。東大・京大・国公立大医学部の合格者総数では全国の公立高校の中で十本の指に入っています。

これからも大学入試の合格を最終目標とするのではなく、自分の夢を実現するための第一歩としてとらえ、大学に入ってから、また社会に出てから伸びる生徒を育てていきたいと思っています。

（泉進路指導主事）

特集　三十年ぶりの合唱団再結成　音楽部ＯＢ会

高松高校には数多くの伝統ある校友会があり、高校を卒業してもなおその仲間が集い、精力的に活動しているＯＢ会も多数存在しています。最近の例では、一昨年のセンバツ出場の際に、応援を盛り立てるために奔走した野球部と応援委員会のＯＢ会や、試合の順延のために出演できなかった吹奏楽委員会の現役生に代わって、急きょ集まって見事な演奏をした吹奏楽委員会ＯＢ会のご活躍がありました。その様子をご記憶の方も多いかと思います。

その一方で、昨年新たに産声を上げたＯＢ会活動として、音楽部ＯＢ会による合唱団結成がありました。そこで、今回の特集では、その意気込みのほどを語っていただきました。

卒業生の皆様いかがおすごしですか。ＴＭＣの名前をご記憶の方もおられると思います。高松高校音楽部、実質的には合唱活動をしています。ＴＭＣの現役生は今でも朝・昼・放課後と、五十年間絶えることなく音楽室に集まって歌っています。

その音楽室で三十～四十年程前共に過ごしたかつての仲間約八十名が、昨年八月十三日に高松のホテルクレメントに集まり、同窓会を行いました。それはまた、大阪府立淀川工業高校グリークラブを指導する昭和四九年卒の高嶋昌二さんの〝プロジェクトＸ〟出演を記念するものでもありました。そこでは、かつて高校生時代に歌った曲が何曲も歌われ、お互いの近況報告やさまざまな話に花が咲きました。

その後、「みんながこれだけ歌えたのだから、このまま何年か後の同窓会まで歌わないのはもったいない」というような話になり、昨年十月一日に「合唱団ア・カンターレ高松」が結成されました。当面、まずは月一回のペースで練習を始めることにしました。当初は昭和四十四年から五十三年卒の面々二十数名のみでしたが、その後平成三年・五年卒のメンバーも加わり、いまでは総勢三十名を超える参加者でにぎわっています。

ＴＭＣでは、卒業して間もない大学生が主体になって、毎年夏休みにサマーコンサートを開催することが恒例になっています。世話をする予定の卒業生の都合などにより開催が危ぶまれた年もありましたが、みなさまのご支援により、この活動はこれまで三十五年間続いてまいりました。

今年開催予定の第三十六回サマーコンサートにこのシニア世代の合唱団「ア・カンターレ高松」が今回加わろうということになりました。従って今回のサマーコンサートでは、現役高校生や最近卒業したばかりの大学生たちが、彼らのご両親と同じぐらいの年齢のおじさまおばさまたちと一緒になってステージを作ることになります。まさに三十年以上の時を隔てて共通の部活動を経験したたくさんの人たちが、さまざまな思いをその歌声にのせ、一夏の一日を過ごすことになるでしょう。

このサマーコンサートは八月十三日（日）十三時三十分開演、県民ホール別館アクトホールで開催されます。ご帰郷を予定されておられる方、合唱を聴いてみたい方は是非ご来場下さい。

詳しくは、事務局：携帯電話〇九〇―一一七三―八五九六または、高松南局私書箱八七号までお問合せ下さい。この夏休みもすてきな思い出をお作り下さい。

第五十六回高松高校文化祭テーマ決定

平成十八年度第五十六回高松高校文化祭の開催に向けて、六月十二日に文化祭委員会が発足し、準備がスタートした。今年のテーマは「雷轟拡銘」で、雷鳴のとどろきのように高松高校の名を広め、知れ渡らせるような見事な文化祭を作りたい、との思いが込められている（その一方で、五十六回が雷鳴の「ゴロゴロ」にかけられている）。順次、各クラス、校友会の様々な企画が決定され、夏季休業中から文化祭当日の完成まで、知恵と汗を振り絞って準備作業に追われる日々を過ごすのは、玉翠会員の誰もが経験されたところであろう。

今年の文化祭は九月九日（土）・十日（日）に開催される。昨年にも増して素晴らしい文化祭になることを期待したい。

高松高校文化祭における「ホームカミングデー」のご案内

来る九月九日（土）十日（日）の高松高校文化祭において、卒業生の方々に高松高校を気軽に訪れてもらおうと、玉翠会員のための部屋を計画しています。

今回は五十四年度卒の方々がお世話くださり、懐かしい恩師の授業を再び、と計画しています。予定では十日（日）昼前後から、三～四人の恩師の先生方に三十分位ずつ授業をしていただく予定です。

是非この機会に思い出多い母校を訪れ、楽しんで下さい。

平成17年度　校友会の記録

全国高校・大学書道展
準優勝　大西　敦子

全日本高等学校書道コンクール
書道教育研究会賞　江﨑　洋平

全国高等学校総合文化祭
オーケストラ部
競技かるた部

全国高校囲碁選手権全国大会
囲碁同好会　豊澤　惇希
榎本麻里子
稲月　龍夢

国民体育大会出場
陸上部　原　将人
真鍋　明佳

全国高等学校総合体育大会出場
弓道愛好会　根ヶ山愛子

平成十八年度　人事異動

【退職】

事務	部長	森本　直樹
音楽	教諭	抜井　寛
公民	教諭	上北　慎吾

【転出】

理科	教頭	大野　治史（津田高校校長へ）
保体	教頭	小坂　悦夫（高松桜井高校教頭へ）
理科	教諭	中本　等（高松北高校へ）
地歴	教諭	多田　守（三本松高校へ）
地歴	教諭	岩田　昌史（観音寺第一高校へ）
理科	教諭	貞廣　真理（高松東高校へ）
英語	教諭	北谷　俊雄（高松商業高校へ）
書道	教諭	藤井真有美（高松南高校へ）
英語	教諭	大野　郁子（香川中央高校へ）
国語	教諭	宮宇地幸喜（高松西高校へ）
国語	教諭	漆原　静（三本松高校へ）
家庭	講師	越智　陽子（香川県大手前高校へ）
数学	講師	松岡　慧（高松商業高校へ）
事務主任主事		山下　和美（聾学校へ）
事務主事		見附　藍（高瀬高校へ）

【転入・新任】

保体	教頭	勝瑞　哲彦（高松商業高校教頭から）
理科	教頭	樫原　正治（県塗研究所主任専門職員から）
事務	部長	三好　利仁（県立体育館次長から）
理科	教諭	川西　輝子（高松商業高校から）
国語	教諭	佐藤日登美（津田高校から）
音楽	教諭	永井　春行（高松東高校から）
地歴	教諭	菊池　和也（香同教事務局から）
英語	教諭	佐野　智子（国際課から）
理科	教諭	山内　康照（高松西高校から）
英語	教諭	川田　倫寛（高松西高校から）
国語	教諭	牛田　幸子（高松北高校から）
数学	講師	尾形　有香（高松南高校から）
家庭	講師	豊嶋　美央（新規採用）
数学	講師	八十川一義
英語	講師	馬場　洋史
書道	講師	萱原香哉子
事務主任主事		出村　憲一（石田高校から）
事務主事		甲斐　淳子（新規採用）

定時制だより

ご挨拶

教頭　樫原　正治

平成十八年度は、四月七日に新入生十三名を迎え、生徒数四十三名（男子二十六名、女子十七名）、職員六名でスタートしました。

私たち職員一同、働きつつ学ぶ意欲に応える教育活動を展開することを基本方針に掲げ、一人ひとりの個性や実態を尊重した、全人教育を進めています。

授業では、内容を精選し、基礎・基本を大切にすることに努めています。また、昨年度に引き続き、授業を公開にしたり、生徒からの授業評価等を参考に、先生方が毎日の授業内容に改善を加え、「わかりやすい授業」の実践に積極的に取り組んでいます。

休み時間、とりわけ給食の時間になると、職員室に生徒が集まり、にぎやかな笑い声が絶えません。

昨年度、軟式野球部は県予選決勝を大差で勝ち抜き、四国大会を経て、二年ぶりに全国大会に出場しました。また、男子バスケットボール部は県予選の決勝で敗れ、惜しくも全国定通総体への出場を逃しましたが、今年はその雪辱に燃えています。

以下、昨年度の学校行事等を特集してご紹介します。

伝統の観月句会　今秋も開催

十月二十五日（火）二限後、運動場で職員、生徒および四名の保護者が、二枚の短冊と筆ペンを手に、ビルに隠れたお月さまを心に描きつつ秋の句をひねりました。玉翠会館和室で、濵松先生より優秀作品十四句が披露され、和菓子を口に、生徒たちが点てた抹茶を味わい、学年を越えて交流を深めました。

指折りて月と語らう句会かな
（溝渕校長先生）

秋の夜コスモスてらすお月さま
（四年　矢野ゆかり）

夜の灯消して探せし冬の陽
（三年　安部裕貴）

恒例の宿泊研修

「県立屋島少年自然の家」
4月28日～4月29日

一年生十名が参加。一日目の昼はカッターで汗を流し、夜はビデオによる高高の歴史の研修や校歌の練習ののち、体育館でレクレーションを行いました。翌日、野外炊飯を終え、無事帰路につきました。「みんなで力を合わせてカッターを漕ぎ、沖に出て、映画『世界の中心で愛を叫ぶ』で使われたロケ地を見ることができ、感動しました。野外炊飯もみんな手際がよく、カレーも上手にできあがっていた。想像以上に楽しかったのと疲れたのとで体がすごく重くなりました。」
（生徒の感想より）

定通総体　三種目に参加　軟式野球部は全国大会出場

六月二十六日（日）、香川県定時制通信制総合体育大会が開催され、男子バスケットボール部、男子女子バドミントン部が出場しました。バスケットボール部は決勝で工芸高に七点差で敗れ、今回も全国大会出場の夢が潰えました。バドミントン部は男子団体が一回戦で観一高に惨敗。女子団体A・Bチームともに二回戦に進出しましたが、それぞれ工芸高、善西高Aチームに惜敗しました。

それに先立つ五月二十九日、国分寺野球場で定通軟式野球大会県予選が開かれ、決勝戦で丸高を二十九対一で破り、四年連続優勝。

四国大会は雨で順延が続き、幸運にも抽選でラッキークジを射止めた総勢十二名の選手・マネージャーは、二年ぶりで全国大会の切符を手にすることができました。

八月九日（火）、朝食もそこそこに明治神宮で開会式に臨み、午後二時、江戸川球場で激戦東京予選を勝ち抜いた都立川高とプレイボール。技巧派藪原投手の投球術に相手打線は手こずりましたが、こちらも相手の超速球投手に三振の山を築き、結果は七対〇で惨敗。しかし、選手たちには一生忘れられない思い出となりました。

新生徒会長決まる

三年生の安部裕貴くんが第五十七代生徒会長に選出され、副会長の山下泰啓くんとともに、初仕事として、予餞会に取り組みました。

遠足　「鷲羽山ハイランド」へ

十月二十八日（金）、雲一つない絶好の遠足日和。東正門前に集合した生徒二十九名と教員七名を乗せ、バスは定刻の十時十分出発。

鷲羽山ハイランドに到着後、ただちに入口前の階段で集合写真を撮り入園。中学生や他高生も訪れ、にぎわうなか、約三時間半の自由行動をゲームや乗り物に打ち興じました。

帰りの集合・点呼も皆の協力で速やかにでき、予定より十分も早く出発できました。今回の遠足が高校生活の思い出のひとこまとして一人ひとりの胸の奥にずっと残ってくれることを願っています。

「全定通合同」の高松高校文化祭に今年も参加

九月十日（土）、十一日（日）の両日、第五十五回高松高校文化祭が盛大に開催され、定時制としては平成十四年に二十七年ぶりに参加して以来四回目を迎えました。

一年生は展示教室出入り口の装飾、二年生は「定時制の一年間」、三年生は「作品展示」を担当。四年生は昨年に引きつづき、「占い、射的、ヨーヨーすくい」などで場を盛り上げました。子ども連れの親子のほか大勢の生徒たちが訪れ、たいへん盛況でした。

「作品展示」コーナーには生徒・保護者・教員による書や写真、手作り作品や絵画などを、そして昨年に引き続き、玉木勲氏（三十一卒）の篆刻（てんこく）、森川輝男氏（四十一卒）の写真、松尾ミキ子氏・山口京子氏（三十七卒）・中村ヒロ子氏（四十一卒）の手芸作品などを飾らせていただきました。

「定時制では文化祭準備の時間が非常に少なく、手の込んだものができません。一人ひとりが仕事の合間や休みの日などを利用して準備にとりかかっていました。まあいろいろありましたけど、当日二日間定時制らしさが出せたような気がします。毎年いろんな案が出ているので、来年、再来年もっともっと良い文化祭になってもらいたいです。」
（四年生女子生徒の感想）

なお、平成十八年の文化祭は九月九日（土）、十日（日）に予定されています。卒業生の皆さんの来校をお待ちしております。

第五十三回全国高等学校定時制通信制　生徒生活体験発表

九月中旬、一年生の中西拓也くんが校内選考会で代表に選ばれ、十月十六日（日）、高松商工会議所で生活体験発表の県予選に臨みました。

三年連続の全国大会出場とはなりませんでしたが、感動的な発表に場内からの温かい拍手と、優良賞をいただきました。

祝御卒業
（男子七名、女子八名）

三月三日（金）快晴、四年生十五名が、晴れて卒業証書授与式に臨みました。

HR教室で保護者らの見守るなか、念願の卒業証書を担任から受け取りました。その後、正門前で集合写真を撮りました。

通信制だより

ご挨拶

教頭　大森　慎一

平成十八年四月十六日の入学式で五十七名の新入生が加わり、本年度は三三五名でスタートしました。

仕事や家事・育児など、さまざまな悩みを抱える生徒のために、専任のスクールカウンセラーが配置され、さらに、ジョブサポートティーチャーによる就労援助も行っています。

生徒を取り巻く社会情勢の変化に対応すべく、本校通信制課程においても積極的に改革に取り組みたいと考えています。

恒例　予餞会盛大に

平成十八年二月十七日（金）、多目的教室で、安部新生徒会長の挨拶で予餞会が始まり、勉強机を並べて作ったテーブルを囲み、学年を越えての晩餐のひとときを過ごしたあと、山下副会長の音頭で催し物が披露されました。

一年生は担任安元先生のギター伴奏で「いつか」を斉唱。二年生は「お絵かきゲーム」。四年生への罰ゲームも結構笑わせていました。三年生による「ビンゴゲーム」のあと、安元先生のギター伴奏で松岡先生が熱唱し、場内は拍手喝采で、最高潮に盛り上がりました。

最後に、各部活動の後輩から四年生へのメッセージと教頭先生からの贈る言葉があり、生徒たち全員の集合写真を撮って散会しました。

生徒会誌「渚」第57号発刊！

定時制創立（1948年）以来続いている「渚」が発刊されました。

歓送会・卒業式

二月二十六日・三月三日

三月三日の卒業式で四十名の生徒が通信制を巣立っていきました。

卒業に先立ち、生徒会主催の歓送会が本校食堂で行われました。思い出のビデオや似顔絵ゲームなどで楽しいひとときを過ごしました。

合同文化祭

九月十、十一日

通信制は「循環～自然と共に～」のテーマで教室展示を行いました。

生徒会役員が中心となり、牛乳パックから和紙を作ったり、廃油からろうそくを作るなど、さまざまなリサイクルを研究しました。また、教室中央には、再生復活の象徴とし不死鳥を飾りました。

生徒の作品も数多く展示し、昨年に続いて優秀賞を受賞しました。

つどい

五月二十九日

午前中は本校体育館でソフトバレーボールでさわやかな汗を流し、午後はアルカディアでグループ討議を行いました。なごやかな中にも真剣な討議が続き、時間が足りないほどでした。

新入生にとっては、同級生や上級生との友情を深めるよい機会となったことでしょう。

体育祭

九月二十五日

第三十一回体育祭が、本校体育館で行われました。通信制の体育祭は、子ども連れで参加する生徒も多く、家族的な雰囲気の中で熱戦が繰り広げられました。

学年対抗ではさすがに四年生のまとまりがよく、他学年を大きく引き離して優勝しました。

定通総体

六月二十六日

第五十四回香川県高等学校定時制通信制課程総合体育大会が、本校体育館、県立体育館、屋島陸上競技場等で開催されました。

本校通信制からは、バスケットボール（男子）バドミントン（男・女）卓球（男・女）陸上100m（男子）に出場しました。

生活体験発表会

九月四日

校内生活体験発表会が玉翠ホールで行われました。各学年二名、計八名がスピーチを行い、学校生活や、人生について日頃感じていることを堂々と発表しました。

一位には上田慶子さんの「娘と私の通信制」、二位には那須莉代さんの「疑問と肯定」が選ばれました。上田さんは県大会で優良賞、那須さんは四国大会で優秀賞を受賞しました。

遠足

十月二十三日

さわやかな秋晴れの一日、小豆島オリーブ公園に遠足に行きました。

美しい瀬戸内海の景色をながめながら歩いた四十分の道のりは、心地よい疲れとともに楽しい思い出を残してくれました。

公園では秋のイベントが開催されており、オリーブ摘みをしたり、「オズの魔法使い」のステージを見て盛り上がりました。

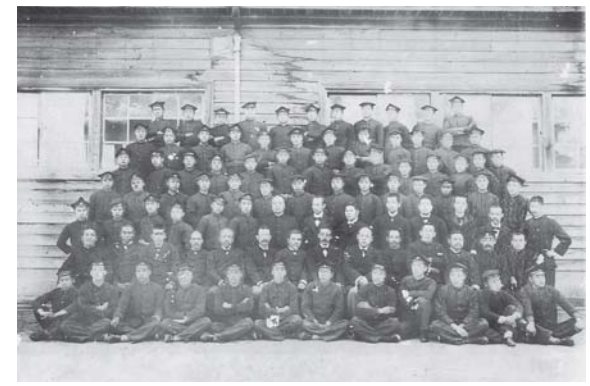
高高の歴史に触れる

間　嶋　都　世
（平成５年卒）

第７回生、明治35年３月卒の皆さんの卒業写真です。私の母方の祖父吉井豊太のものです。実物の写真は、先に父方の祖父間島安太郎（第８回生）が持っていた当時の教科書と共に寄贈いたしました。

祖父は医者になりましたが、大正４年私の母が生まれる２ヵ月前に33才の若さで亡くなりました。

百年以上前の卒業写真はあまり存在しないのではないかと思いお送りいたしました。



明治三十五年高松中学校第七回生の卒業写真
六列目左より四人目が間嶋都世さんの母方の祖父、吉井豊太氏

私が通信制に入学しませんでしたら高松高校ともかかわりなく古い教科書や写真を見つけてもそのままにしていたかも知れません。

不思議なご縁で日の目を見たこの写真を、是非ご紹介いただけたらと存じます。

合せて新旧の校舎で学び百周年の年度に卒業いたしました私達通信制の仲間27名の素晴らしい笑顔もお届けしてみました。

働きながら学び卒業の日を迎えた皆さんの喜びが今でも伝わってまいります。紙面に余裕がございましたらご紹介いただければ幸いです。

尚教科書も百年以上前に本校で使っていたものです。「高高の歴史に触れる」のコーナーでもご紹介いただき何かのお役にたてば…と思っております。整理はできていませんがまだ数冊の本と祖父が使っていたノート等があります。

その日、その時間に教室に座って書いていたと思うと姿まで見えるような気がいたします。

平成五年の高松高校通信制課程卒業生

昭和15年の同窓会名簿も職業が海軍中尉という方もおられ歴史を感じさせられます。

機会があればご覧ください。

文中に見える、高松中学第７回生の卒業写真、間嶋安太郎氏が用いられていた教科書、同窓会名簿等は、間嶋都世さんのご好意により玉翠会にご寄贈いただきました。現在は高松高校５階の玉翠資料室にて保存、展示しております。

『玉翠会報』編集部では今後も引き続き、過去の卒業写真等の掲載を行ってまいります。お手元に高中、県女、高高の古い資料をお持ちの方で、『玉翠会報』での紹介を希望される方がいらっしゃいましたら、ご一報いただければと思います。

先輩講演会と玉翠グローバルアカデミー

「先輩講演会」に加えて４年前から始まった、「玉翠グローバルアカデミー（ＧＧＡ）」の講演会も今年で５年目を迎えます。高高生が、学問や芸術・文化の各分野の第一線で活躍されている方々から直接話を聴き、トップランナーとしての考え方や生き方、そして、各分野の入門的な話に触れることで視野を広げ、知的好奇心を育てることなどが、「先輩講演会」・「玉翠グローバルアカデミー」の目的です。そして、これを契機として将来の進路について考え、学びのエネルギーを獲得した生徒も数多くいます。あらためて、この主旨に賛同し講演をして頂いた講師の方にお礼を申し上げます。

平成十七年度は次の講師（ゲストスピーカー）の方をお迎えし、充実した講演会を開催することができました。

○九月二十一日（水）
脇　明子氏
（昭和41年卒）
ノートルダム清心女子大学教授
テーマ「読む力が思春期を支える」

○十一月十八日（金）
斎藤　善浩氏
（昭和34年卒）
国際弁護士（パーキンス・クイ法律事務所）ワシントンＤ.Ｃ.在住
テーマ「ワシントン生活40年」

○十二月十日（土）
土居　洋文氏
（昭和46年卒）
セレスター・レキシコ・サイエンシズ代表取締役社長
（生命情報科学を応用したゲノム創薬の研究開発ベンチャー企業）
テーマ「補助線を引けるか～バイオと計算機科学～」

～～～～～～～～～～

平成十八年度は三回の講演会を実施する予定です。現在まで、次のように決まっていますのでお知らせします。今後はインターネットの高高ホームページ等で随時お知らせしますので、ご参加下さいますようご案内いたします。

○七月十五日（土）13:00～
二見　仁康氏
（昭和50年卒）
国立がんセンター
細胞増殖因子研究部室長
テーマ「遺伝子の病気としてのがん」

○十月二十一日（土）
本田　由起氏
（昭和58年卒）
東京大学
社会学研究所　助教授
『「ニート」って言うな！』（光文社）著者
テーマ「『若者と仕事』の現状―不安にならないために―」

○十一月八日（水）
西岡　喬氏
（昭和30年卒）
三菱重工業　会長
日本経団連　副会長
テーマ「未定」

投稿募集のお知らせ

玉翠会報では次のようなコーナーを設けたいと考えております。

Ⅰ「**卒業写真**」・・・卒業写真とともに懐かしい高校時代を振り返り、その思い出、エピソードなどを綴っていただくコーナーです。写真は集合写真に限らず、どのような写真でも結構です。世代を越えて、会員の皆様方が高松高校の歴史に触れられるような内容にできればと考えています。

Ⅱ「**文芸欄**」・・・会員の皆様方からお寄せいただいた作品を紹介させていただくコーナーです。具体的な内容については未定ですが、随筆、詩、短歌、俳句など、ジャンルは問いません。

また、「**あの先生は今・・・**」「**ただいま活躍中！**」のコーナーに掲載する方のリクエストもお待ちしております。その他お気づきの点などございましたらお聞かせいただけたらと思います。

宛先は「玉翠会事務局」まで、郵送又はＦＡＸ、電子メールでお願いいたします。

世界のプリマ・ドンナ　香川に歌う
林康子コンサート

本年十二月十七日（日）に、「香川が生んだ世界のプリマ・ドンナ」林康子氏のコンサート「林康子ふるさとに歌う」（仮称）が香川県県民ホールグランドホールで開催されます。

林康子氏は、大内町（現東かがわ市）出身。高松高校を卒業後、東京芸大大学院を経てイタリアに留学後、一九七二年に「蝶々夫人」（プッチーニ作）で、日本人としては初となる、ミラノのスカラ座デビューを果たされた。その後も世界の一流の歌劇場で数々のオペラの主役を演じ続けておられる一方、数多くの世界的なコンクールにおいても一位の座を射止めてこられたソプラノ歌手である。

今回のコンサートは、二部構成で行われる予定である。第一部は、オペラの名場面を集めたガラ・コンサート、第二部は、林氏の代名詞とも言える「蝶々夫人」から、「ある晴れた日に」など数曲が披露される。

高松高校から生まれた、世界を魅了する歌声を間近に聴くことができるまたとないチャンスである。ぜひ、足をお運びになり、同窓生のご活躍の様子をご覧になっていただきたい。

当日は、十四時開演予定。ソリストとして林氏の他、在郷の永井和子、多田羅迪夫など、指揮は菊池彦典、管弦楽は高松交響楽団が出演する。

香川県立高松高等学校玉翠会事務局
〒760-0017　高松市番町３丁目１番１号
電話（087）831-7251㈹　FAX（087）831-0010
mail:gyokusui<takakou@mail.netwave.or.jp>

新年度（平成18年）会費を受けつけております

年会費　１口　1,000円

同封の「玉翠会費納入用紙」をご利用下さい。

玉翠会費納入にご協力下さい

多数の会員の皆様より会費の納入をいただきました。厚くお礼を申し上げます。

あらためて申すまでもなく会費は玉翠会の運営上貴重な財源であります。財源の安定が急務となっておりますので、会員の皆様方には会費の納入について格別のご協力をお願い致します。また代議員、支部役員、職場の幹事の方々のご援助により納入額の増加につとめたいと考えておりますので何卒よろしくお願い致します。